

〔学校関係者評価〕

・コロナウィルス感染拡大で、先の見えない毎日であったが、今は出来ないこと、今だから出来ることを見つけて頑張ってきたと思う。制約がある学校生活の中でも、自主的で規則正しい生活が送れていることや、教職員への信頼度が増えていることは嬉しいことだ。

・コロナ禍のなか、思うように教育活動を進められない1年だったと思うが、アンケート内容から見ても、普段からの実感としても、ルールの遵守、規律正しさ、挨拶等、規律やマナー面が行き届いているということと、活発な部活動ができていていることとを、生徒も先生も保護者も自他共に共通の認識として持つことができている。

・周りから歓迎されるような規律正しい生活態度や学生らしい校内活動への積極的な参画という素晴らしい校風は、長年の先生方のご努力の積み重ねによって育まれてきたものだろうが、学生生活で経験したこれらの素晴らしい習慣を、卒業後も彼らの一生の財産として継承できるように、今学生生活で普通にできていることがいかに素晴らしいことであるかをしっかりと、もう一押しして伝えてほしい。

・ふるさと寄付金に応募された方へのフォローをもっと行ってほしい。卒業生の母校に寄せる思いは強いので、例えば文化祭や体育祭の招待状を送るなど、定期的にメッセージを送り、様々な形で支援をお願いしていくのがよい。

・シアトルへの海外研修旅行が中止となり、国際交流活動を今年度は行うことができなかった。来年度は代替プランが計画されているが、オンライン留学など、さらに国際交流を進めるような活動に取り組んでほしい。

・プロジェクトやICT機器の活用については、生徒と教職員とでは評価に開きがある。これは、活用は進んだが、理解を深めるところまではまだ到達していないということだと思う。この現状を踏まえて、来年度以降、ICT機器を活用した授業の工夫を進めてほしい。